

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----------|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|------------------------|
| 事業所番号 | 4679100166 |
| 法人名 | 有限会社 ソフィアインターナショナル |
| 事業所名 | グループホーム 港ヶ丘 |
| 訪問調査日 | 平成 22 年 2 月 3 日 |
| 評価確定日 | 平成 22 年 3 月 11 日 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会 |

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 事業所番号 | 4679100166 |
| 法人名 | 有限会社 ソフィアインターナショナル |
| 事業所名 | グループホーム 港ヶ丘 |
| 所在地 | 鹿児島市城山1丁目16番7号 (電話) 0997-81-1215 |

| | |
|-------|--------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会 |
| 所在地 | 鹿児島市城山1丁目16番7号 |
| 訪問調査日 | 平成22年2月3日 評価確定日 平成22年3月11日 |

【情報提供票より】(平成22年1月16日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-------|---------------------------------|
| 開設年月日 | 平成 15 年 9 月 17 日 |
| ユニット数 | 1 ユニット 利用定員数計 9 人 |
| 職員数 | 8 人 常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|----------------|
| 建物構造 | 木造 造り |
| | 1階建ての 階 ~ 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|--------------|----------------|---------------|
| 家賃(平均月額) | 10,000 円 | その他の経費(月額) | 6,000 円 (光熱費) |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(50,000 円) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 300 円 |
| | 夕食 | 300 円 | おやつ 100 円 |
| | または1日当たり 円 | | |

(4) 利用者の概要(1月16日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|-------|
| 利用者人数 | 8 名 | 男性 | 1 名 | 女性 | 7 名 |
| 要介護1 | 4 名 | 要介護2 | 1 名 | | |
| 要介護3 | 2 名 | 要介護4 | 1 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 89.8 歳 | 最低 | 68 歳 | 最高 | 100 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|--------------------|
| 協力医療機関名 | 徳之島徳州会病院 ・ ふとり歯科医院 |
|---------|--------------------|


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

太平洋から昇る朝日の素晴らしい景色が望める小高い丘に当ホームが建てられている。ホームの玄関に活けられた緋寒桜の桃色が、季節の訪れを告げ利用者の目を楽しませている。職員は、100歳を超える2名の利用者を中心に、笑顔の絶えない生活を支えるため、利用者に寄り添い会話を多くもつ事を心がけると共に、口腔ケアを大切に、パズル、ぬり絵、豆つかみ、散歩などのレクリエーションを取り入れながら認知症予防に力を注いでいる。利用者の食欲も旺盛で元気の源となっており、明るく楽しいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の改善課題は、重度化や終末期に向けた方針の共有で、評価結果を受けて職員と話し合い、事業所としての方向性を確認した上で重要事項に文言を付け加え改善に取り組んでいる。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 回覧した評価表に職員のできる項目を、日勤帯、夜勤帯で読み合わせをし話し合った結果を書き入れてもらった後、管理者がまとめている。職員は利用者の対応についての確認ができ、ケアを振り返る機会となっている。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 会議は定期的開催し、事業所の状況、行事報告後に参加メンバーによる意見交換を行っている。ヒヤリハットの事例があった時には報告し助言をもらっている。地域代表より地域サロンの情報や地域行事の誘いを受け参加したり、近隣の方に避難訓練やAEDの講習に参加してもらったことなど、地域との関わりが会議を通して深められサービスの向上に繋がっている。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 家族が苦情や意見を表せる機会は、年1回の行事の後に行う家族会、運営推進会議、意見箱や面会者へのアンケートなどである。家族会などでは感謝の言葉を頂くが、面会時に意見や要望をもらえるように職員は配慮している。家族からの要望などを受けた時には、職員間で共有し必要であれば話し合い運営に反映させている。 |
| 重点項目⑤ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 毎月公民館で行われている地域サロンに参加し地域の方と交流している。また、中学校の職場体験の受け入れやボランティアで来てもらうマジック、三味線、島唄、六調踊りなどは利用者も共に参加しながら楽しんでいる。 |

2. 評価結果（詳細）

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「地域との交流を深め家庭的雰囲気の中で、楽しく安心できる日々を支援していきます。」「気軽に訪れやすい、地域に根づいたホーム作りを目指します。」という地域密着型サービスの理念に話し合っ作り替えている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は手書きで掛け軸のように作り玄関に掛けている他、廊下や事務所にも掲げ、日常の支援中でも意識できるように取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 月2回ある地域サロンに参加し地域の方とお話したり、ホームの避難訓練・AEDの講習に近隣住民が参加したりしている。中学校の職場体験の他、三味線、マジック、踊りなどのボランティアにも来てもらい交流に努めている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価表を回覧しケアに関する内容について、休憩時間に職員同士で読み合わせ意見を書き込んだあとに管理者がまとめている。職員は、利用者のケアについての確認ができ振り返りの機会となっている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議は定期的開催している。ヒヤリハットの事例があった時には報告し助言を頂いている。地域代表から地域サロンの情報や地域行事への参加の誘いを頂き参加したり、避難訓練やAED講習に地域の方が参加するなど、会議を通して地域との関わりが深められサービスの向上に繋がっている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 行政担当者には報告や連絡をし情報交換をしている。事業所での避難訓練にも参加し状況を認識してもらいサービスの向上につなげている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 遠方の家族には、請求書と一緒に担当職員が日頃の様子を記した手紙と写真を添えて送付している。島内の方には、面会時に健康状態や日常の様子などを伝え、個別に作成しているアルバムを見てもらっている。金銭出納帳の確認、職員の異動報告なども面会時に行っている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族が苦情や意見を表せる機会は、家族会や運営推進会議、意見箱や面会者へのアンケートなどである。全体の場では感謝の言葉が聞かれるが、面会時に意見を聞けるように職員は配慮している。家族からの要望などを受けた時には、職員間で共有し話し合い運営に反映している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 法人内異動は最小限に抑え、馴染みの職員による支援ができるように配慮している。新人には、ふれあう時間を多くとれるように勤務を組み、夜勤も1ヶ月近く経ってから行うようにしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月1回ある職員会議では、外部研修の報告や必要な勉強会を行っている他、法人の勉強会にも参加している。資格取得に向けての支援も行っている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 町内にある他のグループホームとは利用者を交えた交流を行っているので、いつでも見学に行ったり来られたりできる関係を築いている。大島地区GH連絡協議会に加入し、勉強会や交流会などに職員も機会があれば参加している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 在宅から入居希望があった場合は、本人と家族に見学してもらい納得してから入居するようにしている。施設からの場合は、必ず管理者と計画作成担当者2人で面会に行き状況把握をふたりの目を通して行っている。入居後は、家族の面会や外泊を多目にしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は利用者に対し、自分の親のように尊敬の気持ちを持って接している。利用者から野菜の作り方や島料理などを教わり、食事当番には「おいしかった、ありがとう」の言葉をかけてくれるなど、お互い支え合う関係を築いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 思いを直接伝えられる人が多いが、難しい人には質問をなげかけ選択してもらうなど工夫している他、家族に聞いたり表情を観察するなど把握に努めている。日々の会話の中から気づいた内容は、申し送りや個別の日記に記録し共有している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 介護計画は、関係者が一緒に揃って話し合う機会はないが、家族の意見や意向は面会時や自宅訪問して確認し、職員全員が参加して行う担当者会議で検討した内容を反映したものとなっている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヶ月に1回のモニタリングを行い、変化がなければ保険期間内での見直しをしている。特別に状態変化があった時には、家族と話し合っただけでその都度見直しと共に、退院後には新たな介護計画を作成している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|--|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 家族からの希望で、月1回かかりつけ医による往診をしてもらっている他、理美容院への送迎や自宅を見に連れて行ったり、外泊支援など、本人の要望に合わせ支援している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は家族の了解を得て全員同じクリニックであるが、家族が別な希望があればそちらを優先することは伝えてある。毎月往診があり、適切な医療が受けられるように情報を提供している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化した場合の方針について、職員と話し合い重要事項説明書に文言を付け加えている。 | ○ | 重要事項説明書に付け加えた文言は曖昧な表現であるため、もっと具体性のある、事業所としての方針を明確にされて家族に説明し同意を得られる事を希望します。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | プライバシーについては、ミーティングで話し合っている。職員は、利用者が分かりやすいように島言葉でゆっくりと耳元で話すようにし、声の大きさも適度である。記録物も事務所で保管するなど適切に行っている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 自分の思いを伝えられる方が多いので、おかゆに味噌を入れることを希望する方、冬でも扇風機を出しておく方、好きなぬり絵を毎日行う方などこだわっていることや習慣にしていることを継続して支援している他、買い物やお寺に行きたいなどの要望に沿って支援している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立は利用者と話し合っ決めて、時には外食することもある。食事前に排泄の誘導をし、食事を意識させるようにしている。利用者は、野菜の下ごしらえや下膳、茶碗洗いなど力量に応じ手伝っている。食事時間は、テレビを消して島唄を流し職員と会話しながら食事を楽しみ、殆どの方が全量摂取である。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は週3回対応し、午前、午後その日によって順番も入れ替わる。夏場は毎日シャワーをする方もいる。入浴を拒否される方には、時間をおいて声かけをしたり、入浴と言わずに誘うなどその人にあった工夫をしている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 朝、廊下や居室の掃除をする人、食器を洗う人、洗濯物を干す人、畑を指導する人など利用者のできる事、得意な事を役割としている。楽しみごと、気晴らしは年間で計画している季節の行事の他、レクリエーションでの輪投げ、パズル、歌詞カードを作って歌ったり、闘牛のビデオを見ることなどである。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 道路に出るまでが坂になっているが、ゴミ出しに職員と一緒にいったり、畑の草取り、車椅子を押して景色の良い場所までの散歩、ドライブではポータブルを車に積んで行くなど工夫しながら、いつでも戸外に出られるように支援している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵をかける弊害について職員は理解しており、玄関に鍵はかけていない。廊下から外に出られ、鍵がかかるようになってきているが夏は開け放している。一人で外出した場合でも地域の人が協力して知らせてくれる。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回消防署の指導の下に、避難誘導、通報、消火訓練を行っている。警報装置、通報装置は設置されていない。緊急の連絡網を作成し見える位置に掲げている。近隣の方に協力のお願いはしている。 | ○ | 運営推進会議を通して、災害時の協力体制を地域の消防団などをお願いすることを希望すると共に、警報装置を設置されることを期待します。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の摂取量は記録しているが、水分は必要とされる人には記録している。毎朝のバイタルチェック、月1回の体重測定で健康状態を把握している。栄養バランスは母体病院の栄養士からのアドバイスをもらい、食事形態も噛めない人には了解を得て、細かくするなどそれぞれに応じて対応している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関フロアーが広いので、催し物を行っている。トイレの入り口が車椅子では入りやすく、ドアをはずしてカーテンにしているが、EM菌(きびから作った消臭剤)を使っているためか匂いがしない。リビングにはソファが置かれ、壁には手作りの日めくりカレンダーや季節毎の飾り絵を利用者と一緒に作っている。廊下にも竹ベンチや長椅子でくつろげる様になっている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室の入り口は木のプレートに名前が書かれ掛けられている。ベットは備え付けだが、使い慣れた洋服ダンスや整理ダンス、パイプハンガーが持ち込まれ、1年中使用している扇風機や自分で飲み物を買って入れておく冷蔵庫などもあり、利用者が暮らしやすい居室になっている。 | | |